

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数13万部・非売品

2017.10.20 Autumn

No.
56

News



2017年度障がい者の働く場パワーアップフォーラム

**経済的自立力を備えた
新しい福祉を目指して**



私たちの使命

Profile

1960年大阪府生まれ。1983年：大学卒業後、かたつむりの家を開設。1984年：かたつむりの家共同作業所(副施設長)。1993年：あじさい共同作業所を開設。2000年：Cスクエアあじさいを開設。2001年：(社福)ウイズ町田設立。2004年：就労支援センターらいむ開設。2013年：(一社)ディーセントワールドを設立。代表理事。現在スワンカフェ & ベーカーリー町田店、町田2号店を営業中。2004年：第5回ヤマト福祉財団賞受賞



障害者自立支援法(現総合支援法)が施行された年から、就労継続支援A型事業にとりくみ、10年余が経ちました。パンの製造・販売を仕事に1カ所10名でスタートした事業は、現在は2カ所で40名の障害のある人たちが働く場になっています。この間、一人も減額特例制度を適用することなく、最低賃金を保障してきたことも私たちの誇りの一つです。当初の経営主体は社会福祉法人でしたが、経営の意思決定のスピードアップを図るため、4年前に、A型の経営に特化した現法人を設立しました。法人名は、チャップリンの映画『独裁者』の有名な演説シーンの言葉からいただきました。

真にディーセントな社会とは、障害のある人も、障害のない人と同等に、企業等で普通に働くことができる社会です。しかし、現実的には企業等で雇用されている障害者は約50万人に過ぎず、その他の大勢は、労働者としての権利すら有していない状況にあります。A型は、理想の社会と、そこにはまだ遠い現実の社会とのギャップを埋める中間的・過渡的な働き場であると考えています。私たちは、障害のある人が、まずはスタートラインとして、「労働者」の立場に立ち、自らの労働の対価として、生活に足る賃金を得て、夢を叶え、自分や家族の生活をより豊かにしていくこと。更に、希望があれば、私たちの事業所で得た経験をステップに、新たな道を切り拓いていただくことを願いつつ、事業にとりくんでいます。

今年4月から事業の見直しを実施され、A型を取り巻く環境は一層、厳しさを増しています。「害虫駆除」を目的に散布した農薬がいささか強すぎて、本来、作物に育つはずの苗までも枯らしてしまう状況にならないかと、危惧しています。事業者の資質が問われることは当然ですが、制度自体の矛盾や欠陥を改めていくことが何より重要です。逆境にめげることなく、A型の矜持を胸に、事業を継続・発展させていくことが私たちの使命であると思います。

CONTENTS

表紙写真

就労支援事業所ハーベストで、富山ブランド・アルギットにらのそぐり作業を利用者さんと一緒に行う、ヤマト運輸労働組合富山支部の早川支部執行委員長

- 03 2017年度障がい者の働く場パワースタッフフォーラム
経済的自立力を備えた
新しい福祉を目指して
- 08 花田春兆さんを偲んで
【瀬戸理事長の受賞者訪問】
第12回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者・柴田智宏さん
福祉施設で働く、企業で働く
障がいがある方に仕事の選択肢を

- 12 【夢へのかけ橋実践塾】3塾修了式・新塾中間報告・新塾研修会
利用者さんの給料増額へ 卒業は、新たな始まり
- 14 助成先レポートVol.31 就労支援事業所ハーベスト(富山県富山市)
大規模・集約型農業でこらむ未来
- 16 この街で、一緒に生きていく。障がい者のクロネコDM便配達事業
自主的に、確実に、思いやりをもって。
就労後に役立つ経験を重ねていく。



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

経済的自立力を備えた 新しい福祉を目指して

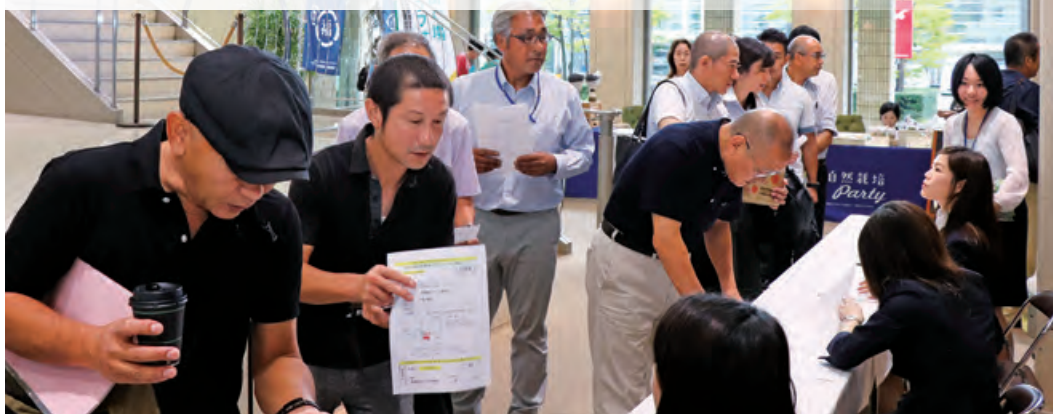
大阪会場・7月7日(マイドームおおさか)
「食」で広がる障がいのある人の働く場



東京会場・7月21日(全社協・灘尾ホール)
重い障がいのある人の仕事づくり



金沢会場・8月25日(金沢流通会館)
農業と福祉の連携に取り組む障がい者の働く場



福岡会場・9月1日(エルガーラホール)
就労継続支援A型事業所の未来



初の大試食会、農福連携の実践リーダーたちの招聘、
A型事業所や重い障がいのある方の未来も語り合っ
本年度のパワーアップフォーラムは、大阪、東京、金沢、福岡の4会場で
開催しました。「経済的自立力を備えた新しい福祉を目指して」をベース
に、会場ごとにサブテーマを設定。障がいのある方が生き甲斐を感じ働
き続けられる仕事と職場、高い給料の実現に、福祉施設になにができる
のかを、講演者とともに話し合いました。

見つけてほしいのは

前に進むための課題と解決の糸口

「本日を契りある1日としてください」。

瀬戸理事長は、福祉施設が抱えるさまざまな問題解決に、独自の試みを実践し結果を出している講演者たちの話を聞き、良きモデルとして参考にしてほしいと主催者挨拶を行いました。

毎年、パワーアップフォーラムでは、きょうされん専務理事の藤井克徳氏に時流講座を行っていたいただいています。藤井氏は、昨年、神奈川県はやまゆり園で起きた痛ましい事件にふれながら、現在、障がいのある方たちを取り巻く行政のケアのあり方、障害者権利条約、就労問題などを解説しました。

「約1万人の障がいのある方を調査した結果、基礎年金、給料、親からの仕送りも入れた所得合算値は、100万円を切る方が60%以上もいました。これでは親元を離れ、地域で自立して生活することはできません。我々が求

めているのは、特別な権利ではなく一般市民との平等性の実現です。その一つが、働きがいのある人間らしい仕事リディーセントワークです」。

各講師には、歴代の小倉昌男賞受賞者などを招聘し、会場ごとのサブテーマに合わせた講演を、事例報告者には、現場での生きた体験などを報告いただきました。さらに、昨年に引き続き各会場の地元福祉施設で働く利用者さんが「当事者の声」を発表。4会場で全8名の利用者さんが登壇し、日々どのような気持ちで仕事に励んでいるか、今後の目標などを伝えました。

最後は、藤井氏がコーディネータとなりシンポジウムを開催。来場者からのさまざまな質問にシンポジストたちが回答しました。

瀬戸理事長は「みなさん、前に進むための課題と解決の糸口は見つかりましたか。世の中に役立つ仕事をしたと願う利用者さんの気持ちに添えてあげてください」とエールを贈りました。



4会場すべてがほぼ満席になった今年のパワーアップフォーラム。全会場で約690人の参加者がありました



「ディーセントワークは、みんなが求める平等の権利」ときょうされんの藤井専務理事



「社会に役立ちたいと願う利用者さんの気持ちに添える仕事を」と瀬戸理事長

当事者の声「働く本人からのメッセージ」

大阪会場

(社福)まいづる福祉会 ワークショップ ほのぼの屋

六田 宏さん

「美味しかった、また来たい」と喜んでいただけるレストランサービスを目指しています。いま時給は1000円で月給約17万円。結婚して子どもが3人、念願のマイホームも建てました。

(社福)一麦会 けいじん舎

栗本 いさ子さん

私の担当は、野菜を切ったりカレーに使うタマネギを炒めることです。食の仕事は、即生活に役立ちます。いまの仕事は、私に一番合っていますし、大好きです。

金沢会場

(社福)一羊会 One memory

佐藤 紘徳さん

水耕栽培の水管理が、僕の担当です。空になったタンクを満杯にするのに一日近くかかってしまうこともあります。お客様に美味しいと食べてもらえて、うれしいです。

(NPO)野の花 ゆうの丘

久水 貴仁さん

肉厚3cm直径8cm以上ある高級原木シイタケを栽培しています。冬場の外作業は辛いですが、いまの収穫量は年間1t前後。シイタケ農家に負けない生産量を目指しています。

東京会場

(社福)はる パイ焼き窯

たんぼぼさん

ずっと妄想などに悩まされてきましたが、パイ焼き窯と出会い、救われました。私の担当はお菓子の包装。障がいは違っても、みんな得意な分野で元気に明るく働いています。

(社福)ときわ会 あさやけ作業所

山口 伸一さん

あさやけに来て38年、担当する仕事が変わっても、できるようになると、それが自信になります。後輩の面倒も見ながら、身体を壊さないようにこれからも働いていきます。

福岡会場

(一社)社会福祉支援協会 Be Friend事業所

Aさん

ちゃんぽんや弁当を販売するお店で、オーダーをとったり、料理の提供、弁当の配達もします。自分で働いてお金を得る喜びを感じながら、責任を持って日々働いています。

(社福)柚子の木福祉会 レストランゆずのき

平野 智子さん

毎日300食の弁当をつくる調理補助をします。楽しく仕事をする、人とのつながりも良くなります。調理師免許を取って、たくさんのお客様の笑顔を見てみたいです。



夢へのかけ橋実践塾の二人の塾長と試食会の出店施設をシンポジストに、食に関する事業での各人のノウハウなどを来場者に伝えました



初の試みの大試食会。大盛況であったという間に売り切れのブースも続出しました

(社福)キャンパスの会

理事長 楠元 洋子氏

高齢者配食サービス、お弁当、レストラン、ふるさと納税の返礼品など、食には多くの可能性があり、事業の広がりとともに利用者さんの仕事も増えていきます。



(NPO)はまゆう作業所

理事長 深瀬 幸子氏

一番の売れ筋は、切り干し大根です。美味しくて安くて安全なものは喜ばれ、喜ばれるものは、繰り返し売れます。量産体制を整えることが、いまの課題です。



(NPO)吉野コスモス会 ういる工房

販売責任者 永仮 善久氏

施設の都合で商品をつくるのではなく、社会に求められる売れる商品を開発し、利用者さんに働く喜びを知ってもらう。そのために、私たちがいると思っています。



(社福)亀岡福祉会 第三かめおか作業所

所長 日下部 育子氏

給料の高い低いは、利用者さんの働く意欲、人生も左右します。売上を伸ばせる食品づくりに、すべての利用者さんが携われる支援をみんなで目指しています。



大阪会場

マイドームおおさか

「食」で広がる障がいのある人の働く場

試食会も行い食の事業の情報共有

7月7日の大阪会場は、サブテーマを「食」で広げる障がいのある人の働く場とし、食品関係で事業展開する16施設が、自慢の商品を出店する大試食会も開催しました。

夢へのかけ橋実践塾で弁当・配食サービスを指導する楠元塾長は「お弁当・高齢者向け配食サービスに夢を託して」をテーマに講演。実際に提供するメニューなどを写真入りで解説しました。続いて同塾で製菓を柱に塾

生を指導する亀井塾長が、試食会に出店した16施設を紹介。「利用者さんのためにも、出店施設は、企業秘密などなしで、来場者にとんだん情報を明かしてください」と伝えました。

パワーアップフォーラムで初の試みとなった試食会ですが、たくさん用意した商品も足りなくなるほどの盛況となりました。試食会後は、出店3施設が事例を報告。それぞれの地域性を活かし、利用者さんの能力を高めながら、いま食べてもらった商品をどのように製造しているかなどを説明しました。

試食会の出店施設：16施設



(社福)ひびき福祉会の亀井理事長は「なぜその商品が事業の柱になっているのか。どこにこだわりつづけているのか」などを、軽快なトークで出店者たちから聞き出しながら紹介を行いました。「試食の際は、味わうだけではなく、利用者さんの得になる情報も持ち帰ってください」と伝えました。

法人名	出店商品
(社福)キャンパスの会	真空調理そうざい(野菜ポタージュ、椎茸のクリームソース、トマトソース)
(社福)ひびき福祉会	春巻、餃子、焼売
(社福)慶光会	蒜山焼きそば、麺類(蕎麦、うどん)
(NPO)吉野コスモス会	柿の葉ずし、炙りずしなど
(社福)一麦会	コロッケ、ジュース、和の葉ゼリー
(NPO)はまゆう作業所	めはり寿司、切り干し大根
(社福)聖徳園	焼き菓子、コーヒー
(社福)さつき福祉会	炭酸せんべい
(社福)つむぎ福祉会	パン、焼き菓子
(社福)修光学園	洋菓子(焼き菓子)、紅茶(アイスティー)
(社福)一峰会	紀州五色パウム
(社福)亀岡福祉会	シフォンケーキ、あられ、ノンフライチップス
(社福)樺原市手をつなぐ育成会	グルテンフリーの焼き菓子、燻製煮玉子
(社福)コスモス	製菓(わらびもち、クッキー)
(社福)京都いたはし学園	パン、焼き菓子
スワンカフェ&ベーカリー大東店	パン、焼き菓子

「重い障がいのある人の仕事づくり」

多様な仕事と個性に応じた支援

7月21日、東京会場では「重い障がいのある人の仕事づくり」をサブテーマに、4名の方がそれぞれの取り組みなどを講演しました。

夢へのかけ橋実践塾の塾長でもある(社福)はらから福祉会の武田氏は「障がいがあるから、その人のできる仕事を当事者ではなく関係者が勝手に決めて良いはずがない。それを支援することが、我々の使命です」と講演。IT企業を経営し、社員10人中8人の障がい者を雇用する(有)奥進システムの奥脇氏は「一緒に働きたいと思った方が、たまたま障がいのある方でした。より働きやすい職場を整えるのは、経営者の務め。企業も福祉と同じです」と話しました。「障がいがあるからこそできることを増やし、好きなことを仕事にできれば、だれもが人生の主人公になります」と(社福)皆の郷の大畠氏。(社福)さくらんぼの会の倉品氏は「問題行動の根本を理解し、支援者みんなが意志を統一して支えていけば、それまでできなかった仕事でもできるように変わります」と、ほぼ満席となった190名の来場者に語りかけました。



企業・福祉施設、さまざまな立場での取り組みや考え方を講演

(社福)はらから福祉会

理事長 **武田 元氏**

工夫次第で障がいの重い人も仕事に参加できます。



(有)奥進システム

代表取締役 **奥脇 学氏**

企業は、福祉施設の支援力を見習うべきだと思います。



(社福)皆の郷

川越いもの子作業所

所長 **大畠 宗宏氏**

利用者さんの「働けてうれしい」という声に応えたい。



(社福)さくらんぼの会

おそうざいのさくらんぼ

係長 **倉品 みや子氏**

本人の気持ちを汲みながら、仕事の進め方を改善します。



果樹園、自然栽培、水耕栽培、直売所などで、利用者さんの給料増額を実現するリーダーたちの実践方法を農福連携のモデルにした。

栽培方法や販路を考え農福連携へ

「お客様の声は宝の山。お客様を知る現場の提案がなければ、良いサービスは行えません」。瀬戸理事長の講演でスタートした8月25日の金沢会場。サブテーマは「農業と福祉の連携に取り組む 障がい者の働く場」です。

(NPO)ピアファームの林氏は「農業は自然と相談しながら行う大変な事業。楽しいからというだけでは、必ず失敗します」と農業をはじめの覚悟を問いました。

さらに、農福連携のリーダーたちが実践内容を報告。「地域とつながること、6次産業化など新たな可能性も広がります」と(社福)こころんの熊田氏が体験を語りました。埼玉福興(株)の新井氏は「障がいのある方が、農業で働くための仕組みをつくることも必要」と説明。(株)パーソナルアシスタント 青空の佐伯氏は、無農薬・無肥料・無除草剤の自然栽培でつくるお米や野菜で高収益を生んでいます。「地域の方に必要とされる農業は、ディセンソワークを実感できる仕事。私たちの力で日本を元気にしましょう」と呼びかけました。

「農業と福祉の連携に取り組む 障がい者の働く場」

(公財)ヤマト福祉財団

理事長 **瀬戸 薫**

戦わずして勝つために、新しい市場を見つけましょう。



(NPO)ピアファーム

理事長 **林 博文氏**

大事なものは、売れる商品を選び、どう販売するかです。



(社福)こころん

常務理事 **熊田 芳江氏**

地元の食材を活かした新しい商品も開発しています。



埼玉福興(株)

代表取締役 **新井 利昌氏**

農業は障がい者に多様な働き方を提供することができます。



(株)パーソナルアシスタント 青空

代表取締役 **佐伯 康人氏**

自然栽培をはじめの施設が、日本中に広がっています。



「就労継続支援A型事業所の未来」

利用者さんのためのA型事業所へ

9月1日に開催した福岡会場のサブテーマは「就労継続支援A型事業所（以下A型事業所）の未来」。多くの方が来場され、関心の高さを示しています。全Aネットの顧問を務める岩田克彦氏が「一般就労が難しい障がい者に対して、A型事業所が果たす役割について話しました。厚生労働省 社会・援護局の服部剛係長は、最近、マスコミにも取り上げられた悪しきA型事業所について解説。『それでも、私たちは障害者総合支援法に基づき、障がい福

祉サービスを継続できている施設を、正しく評価していきます」と伝えました。

逆風の中にあるA型事業所ですが、良い事例はたくさんあります。「一般就労を続けられなくなった方に、働く喜びをもつ一度味わってもらいたい」と（株）ばいおにあ未来サポートステーションの井上靖統施設長（社福）東康会の山田健二氏は「利用者さんの働く目的に合わせて就労支援とA型の両輪で支えたい」と報告。（合）ソルファコミュニティの代表 玉城卓氏は「自然栽培も取り入れながら農福連携で仕事を拡大中です」と話しました。



A型事業所が抱える問題点などを共有。現場の声も参考に、解決の糸口を考えていきました

※ 全Aネットとは

全Aネット＝（NPO）就労継続支援A型事業所全国協議会は、障がい者の就労を支援する企業や福祉施設、NPO法人による全国組織です。障がい者が雇用契約を締結して働くA型事業所の「あるべき姿」の情報交換と論議を行い、政策提言につなげようとしています。

中間的就労分野における基本的課題とA型事業の可能性研究会

座長 岩田 克彦氏

利用者さんのために、良いA型事業所が増えてほしい。



厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 就労支援係

係長 服部 剛氏

頑張っているところを評価する報酬改定を考えています。



（株）ばいおにあ 未来サポートステーション

統括施設長 井上 靖氏

仕事を楽しく、自分らしく継続できるのがA型です。



（社福）東康会 就労継続支援A型事業ねんりん

施設長 山田 健二氏

溶接技術などのスキルも身に付けられる環境です。



（合）ソルファコミュニティ

代表 玉城 卓氏

沖縄から全国へ、ネットワークをさらに広げます。



「はたらくNIPPON！計画」A型フォーラムin福岡 ～「いいA型」のあり方を考える～

主催：（NPO）就労継続支援A型事業所全国協議会（全Aネット）

翌9月2日には、全Aネット主催によるフォーラムが開かれ、三つの分科会で意見交換が行われました。

「分科会1／ネットワークの必要性和メリット」では、現場が動きやすい環境をつくることで施設内外でのネットワークを構築でき、新しいアイデアも生まれるなどの意見が出ました。「分科会2／生産性を高めるポイントと企業との結びつき」では、事業の異なる4施設が、利用者さんの働く仕組みや仕事を創出する着眼点などを報告。「分科会3／A型事業所の利用者サービスの質を高めるために」では、最賃を保障しながら職員の負担を考え、どう実践しているのかを3施設が発表しました。

分科会のあとは、全体ディスカッションを開き、悪しきA型と呼ばれる事業所が生まれた背景などの情報を共有。「きちんと雇用契約を結び、最低賃金以上を払い、保険にも入り税金も払うA型事業所は、社会にとっても利用者さんにとっても良いシステムである」。この全Aネットの基本方針を改めて確認し、最後には全員で「悪しきA型事業所は認めない！」と大会宣言をしました。



花田春兆さんを 偲んで

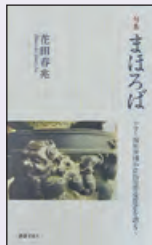
——平成29年5月13日に他界されました——

毎年12月に開催される、ヤマト福祉財団小倉昌男賞に欠かせないシーンだった春兆さん贈呈の俳句。初めての作句は第3回の授賞式祝賀会の時でした。祝賀会会場で多くの関係者がお集まりの中、春兆さんが即興で受賞者に向けて作句をしてくださいました。そして、第5回からは受賞者に贈呈する俳句として恒例となり、平成27年第16回で春兆さんが特別賞を受賞され、ご自身に贈られた生きて来し卒寿の幸を噛みしめよ

花田春兆

が、ヤマト福祉財団小倉昌男賞での最後の句となりました。平成28年には受賞者に贈った俳句をまとめた句集「まほろば」が発刊されました。花田春兆さんのご冥福を心よりお祈りいたします。

句集「まほろば」の編集に関わり、春兆さんを介助し共に過ごしてこられた文筆家の坂部明浩さんに追悼の言葉をいただきました。



第16回ヤマト福祉財団小倉昌男賞で、春兆さんの受賞の挨拶を坂部さん(写真左)が代読

出会うべくして生まれた俳句

坂部明浩(介助、著述業)

ここ17年ほど、ご自宅と同じ港区の特養の個室で創作活動をされていた春兆さん。奥様に俳句の自信作をお見せするため、私がご自宅へ持参していたことがありました。特に年末の配達には、奥様の目につくよう、ヤマト授賞式で披露した俳句が決まってトップに添えられていました。「いつもの坂部便ですか?」「いや、今回はヤマト「便だよ(笑)」と春兆さん。

さて、実際の授賞式に向けての作句の様子ですが、例えば、
雪の野を宝庫に変へし底力 春兆

ここでの「雪の野」は受賞者の活動する北海道のこと。春兆さんにとって、経験のない「北海道の雪」からどう表現を生み出すか。そんな時春兆さんは、大学の教え子たちの成人式で雪に見舞われた時のことを思い出し、それを北海道の雪の野に重ね合わせることで、やっと自身のこととして、雪の野の大変さを少しでも感じ取ることが出来たと仰られていました。

俳句を単に言葉の巧みだけで創るのではなく、少しでもその光景に近づこうというお気持ちがあるからこそ、「底力」という言葉が生まれたのだと思います。相手を感じやる努力を欠かされませんでした。

そして、何事にも「継続」を心掛けられた春兆さん。先の大学での授業は好評で数年続き、OB生も応援に。また光明学校仲間と始めた身障同人誌『しのめ』は64年間、港区の仲間とは歌と踊りの集いを35年間続け、俳句誌『萬緑』も終刊号まで立派に投句を果たされました。

人をユーモアで惹きこみ、相手を思いやり、それらを断固として継続する。まさに、社会的企業にとっても必須のこれらの要素を持たれていた春兆さんだからこそ、出会うべくして生まれたヤマトの俳句であつたと思います。

そして毎冬恒例の色紙による俳句贈呈の場は、俳句の筆ペンでの清書や自作の解説文を、時によってはギリギリ「納期」を間に合わせる事が出来ての(会場担当者のハラハラを織り込み済みの!)会心の笑顔だったのです。



第15回ヤマト福祉財団小倉昌男賞で、北海道で世界品質のチーズを生産する農事組合法人共働学舎新得農場代表の宮嶋望さんに贈られた句

第12回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者・柴田智宏さん

瀬戸理事長の
受賞者訪問

福祉施設で働く、企業で働く 障がいがある方に仕事の選択肢を

「小倉昌男賞受賞後も目覚ましい活躍を続ける受賞者を訪ね、福祉施設の支援に新たなヒントを」。瀬戸理事長が訪ねたのは、企業と福祉の両輪で障がいのある方の働く場と仕組みづくりを実践する柴田智宏さんです。



8月23日、酷暑の東京を出発。西日本でも指折りのリゾート地・蒜山（ひるぜん）高原にある柴田さんの待つ岡山県真庭市へ。避暑地の涼やかな風をひそかに期待していましたが、迎えてくれたのは厳しい真夏の陽射しでした。

製麺業で年商1.6億円の実績を上げ、2011年度第12回ヤマト福祉財団小倉昌男賞を受賞した柴田さん。しかし「福祉施設の枠だけでは、障がいのある方の働く気持ちに応えることはできない」と、その場に立ち止まることなく、起業への道を踏み出しました。

現在は、岡山県にある社会福祉法人慶光会の理事長と、鳥取県の有限会社ドアーズの代表取締役という二つの立ち位置で、障がいのある方の働く場を広げ、生き甲斐を持って地域で生活できるように支えています。

「1円でも給料を上げることが利用者さんの幸せにつながる」。この柴田さんの考えに賛

同に働ける製麺所を開業します。

最初に訪ねた（社福）慶光会の事業所「ワークスひるぜん」は、柴田さんの活動の原点となった製麺事業を行っています。

柴田さんは、高校を卒業後、生まれ故郷の鳥取県の社会福祉法人で、うどん・蕎麦の製麺事業の立ち上げにかかりました。「障がいのある方と一緒に仕事をやりたい」という喜びをこころ知ったのです」と柴田さん。ところが配属が変わり、現場から離れることに。

西日本屈指のリゾート地で
年商1億円を超える製麺所を開所

MAP



ペットフードを製造する
（有）ドアーズ



製麺工場を運営する
（社福）慶光会 ワークスひるぜん

DATA

社会福祉法人慶光会 ワークスひるぜん（岡山県真庭市蒜山上長田）
就労継続支援A型／10名 就労継続支援B型／24名 就労移行支援／6名

有限会社ドアーズ（鳥取県倉吉市関金町）
事業内容／ペットフード製造業 従業員数／27名

同した当時(社福)慶光会の理事長とともに、実績を上げていきます。しかし、衛生環境を整えなければ、いま以上の取引は難しいとバイヤーに言われ、もう一段階進むために衛生管理の行き届いた新工場を完成。年商1.6億円・月額平均給料5万円の成果を上げました。

早速、清潔で明るく活気に満ちた工場の中へ。工場内はエアシャワーや空調設備、入退室経路も分離し衛生管理を徹底、異物混入を防ぐための金属探知機も備えています。

「自然のものが豊かなこの地域に合う仕事を見つけ、利用者さんの手で消費者にも取引先にも喜んでもらえるレベルに高めているのが素晴らしい」と瀬戸理事長は感心していました。

いろいろな障がいのある方に働く扉を開く会社「ドアーズ」

次に県境を越えて、ペットフードの製造を行う鳥取県倉吉市の(有)ドアーズへ。
柴田さんが、起業への道を選じた理由はなんだったのでしょうか。

「製麺所の売上も見学者も増え、順調に事業は進んでいましたが、その陰で『福祉施設だから、障がい者を安く働かせてうまくやっているだけだ』といった声も聞こえてくるようになりました。くやしき思いましたが、自分は本当に障がい者を1人の従業員として支えることができるのだろうか?と自問自答。そのとき、『たとえ給料が安くなっても、施設より企業で働きたい』と話す利用者さんの声が聞こえてきました。障がいがあるからと仕事の選択肢を狭めてはいけない、自分が会社を立ち上げなければと心を決めたのです」。

最初の法人を辞めるとき、起業したいと話したとき、奥様はあきれながらも陰で柴田さんを支えてくれました。柴田さんは、生まれ故



(有)ドアーズは、ペットフードの中でも少量多品種で製造するところが少ないため、大手企業が取引先に困っている「おやつ」に着眼しました



最初は見ていただけだった利用者さん。今は原材料の準備から、スライス・加工まで一人で担う、なくてはならないメンバーです



(社福)慶光会の事業所「ワークスひろぜん」。豊かな自然が生む地元の食材を活かした製麺事業の成功が、柴田智宏さんのスタートでした

郷の鳥取県で地域のいろいろな立場の方の声をリサーチします。すると思うように仕事に就けずに困っているのは、障がい者だけではないことにも気づきました。

「高齢者など体力がなくて長時間働くのが難しい方、シングルマザーやファーマー、親や子どもとの介護をしている方などがたくさんいました。彼らは『働く時間に障がいのある方』だったのです。こうした状況にいる方も含め、私は、どんな障がいも個性だと受け止めることができる会社をつくりたいと決めました。社名も『すべての方に、いろいろな可能性のドアを開くことができる。就労に困っているすべての人に扉を開くことができる』そんな会社になりたいと、(有)ドアーズという名前にしました」。

(有)ドアーズでは、中津世侍常務が我々を迎えてくれました。

「私がペットフード事業に進んだのは、中津さんと出会えたからです。最初は、姫路で会社を営む中津さんから袋詰めの下請け仕事をいただいていたのですが、どうせやるなら製造もして会社を大きくしたら良いではないか、一緒にやろうと、鳥取県に来ていただきました」と柴田さん。

中津さんは「私が障がい者施設に仕事をお願いしていたのは、企業よりも安くやってくれるからという安易な発想でした。しかし、柴田さんの考えを聞いているうちに、手伝いたくなってしまうのです」と笑います。

必要なのは、働く仕組みとチャンスはどうつくり上げるか

二人は、ペットフードの中でも「おやつ」に目を付けました。ペットフード産業は、約800億円とされていますが、仕事の大半は国内の大手工場が握っています。そこで、ペットのお

やつをやるうと考えたのです。メーカーが東南アジアに頼っていた生産を、信頼できる国産に変えようとしていたこと。国内でおやつをつくっている所が少なかったことも、私たちには追い風でした」

工場内では、包丁や切断・乾燥する機械を使用する従業員の姿も。「当初、障がいのある方に包丁を扱わせるのは危険だと考えていましたが、本人からぜひやりたいと言われて、訓練をはじめました。いまでは、一人で肉の処理すべてをこなす方もいます。ドアーズの従業員の約半分は障がいのある方ですが、品質もスピードも申し分ありません。私が製造ノウハウを、柴田さんが働く仕組みづくりを担当していますが、安心して働ける仕組みとチャンスさえあれば、いくらでも可能性があると感じています。私はここに来て、障がいがある方に対する考え方が随分と変わりました」と中津さん。

柴田さんは、障がいのある方だけではなく、子育てで思うように働けない方や高齢者なども、最初は短時間から始めて、やがては職員として働ける仕組みもつくり上げています。「二人が出会ったのは、天命だったかもしれません」と瀬戸理事長は頷いていました。

ペットフードビジネスは 福祉施設にとって狙いの事業

「ドアーズの商品は、すべてOEMです。自社商品を作ってしまうと、売れ行きに左右されて仕事が終わる可能性があります。OEMなら年間契約してもらえ、安定して仕事を取れます。包材も製造レシピも支給、単価が多少安くても安定性を選ぼうという方針です」と柴田さんは話します。

「それはいいですね。自社商品をつくれれば競合もつくってしまいますから。いまは、子ども



「障がいのある方にできる仕事、できない仕事と決めつけていてはダメだと気づきました」と中津さん



「福祉施設と企業、双方のメリットをバランスよく保つことが大切です」と柴田さん



「地方の施設に新たな仕事の広がりを生むペットフード事業のこれからに期待したい」と瀬戸理事長



ペットフードの袋詰めを、地域の福祉施設のネットワークで取り組んでいます(写真は倉吉市の社会福祉法人和(なごみ))



ドアーズからワークスひるぎんに袋詰めの仕事を発注。ドアーズへの就労を見据えての訓練にもなります

「世のため、人のためになる良いモデルであり、全国の福祉施設にチャンスがありますね。当財団も応援できるように考えていきましよう」。瀬戸理事長には、福祉施設への新しい支援のアイデアが閃いているようです。

施設から話を聞いた行政も援助して体制を整え、いまこの施設は、約1ヵ月で120万円近く売上げること成功しています。「害獣駆除したイノシシの肉、サメ肉をペットフードに活用できます。また、ヒノキをチップにして猫砂にするなどいろんな可能性があるとあります」と柴田さん。

「実際に(有)ドアーズは、昨年対比約150%の成長率で売上約5億円になっています。商品の包装は(社福)慶光会や近隣の福祉施設に協力してもらい、地域に住む障がいのある方の仕事の拡大を目指す柴田さん。ペットフードは、地方の福祉施設にとって良いビジネスチャンスになるはずだと話します。

「パワーアップフォーラムで名刺交換をした長野県の福祉施設と取引をはじめています。そこは山奥にある施設で、仕事をつくりたくてもなにもない、ぜひやり方を教えてほしいと相談を受けました。詳しく聞くと、シカが増え過ぎて害獣となり、農家も行政も駆除と後処理に苦労しているので、シカ肉を利用できないかとのことでした。だったら、加工してくればうちが購入しますと、長野県に出かけて乾燥機を貸し出し、製造方法や機械の扱いも指導しました」。



第2期亀井塾 塾長：(社福) ひびき福祉会 亀井 勝 理事長(中央)



熊田塾 塾長：(社福) ころん 熊田芳江 常務理事(前列右から2番目)



5万円必達塾 塾長：(社福) はらから福祉会 武田 元 理事長(前列中央)



(NPO) 夢・さばーとの福原和美さん(左)と(NPO) 出愛いの里福祉会の高橋勝茂さん(右)の2人の実践塾卒業者も近況を報告

夢へのかけ橋実践塾

3 塾修了式・新塾塾中間報告・新塾研修会

利用者さんの 給料増額へ 卒業は、新たな始まり



大切なのは卒業後も続けること
その努力はきっと数字に現れる



瀬戸理事長

当日は、第3期新塾塾の中間報告と新たに
始動する第2期楠元塾の開講式も同時に開
催。卒業生の成果報告の前
に、瀬戸理事長は「成功し
たことも、失敗したことも
包み隠さず後輩たちに伝

製菓などの食品事業を柱にした「第2期亀
井塾」、農業とネットワークづくりをテーマに
した「熊田塾」、第2期武田塾卒業業者がより高
い目標達成に挑んだ「5万円必達塾」。利用者
さんの給料増額と仕事の拡大を目指し、20
15年10月にスタートした3塾の研修も9月
8・9日の合同修了式で一つの区切りを迎え
ました。

えてください」と挨拶しました。

「棚卸しで材料費を見直し原価率を改善し
た」「他塾生から果物や商品を仕入れ、売上の
新しい柱ができた」「迷ったときはやるだけと
新工場を建設した」「夢へのかけ橋 事業改革
モデル化資金で、新しい機械を購入して生産
体制も整った」など2年間の成果を報告。中
には「営業体制を整え、目標まであと一歩でし
た」と話す塾生もいます。

修了式には、夢へのかけ橋実践塾を卒業後、
さらなる成長を遂げた二人の先輩も参加し、
近況を報告しました。

「弁当の塾なのに弁当事業を立ち上げたの
は、残り1年になってから。ゼロからのスター
トでしたが、卒業後も塾長の教えを守り、1カ
月の販売数は約4050食、150万円以上
を売り上げるようになりました」と楠元塾1

期生の(NPO)夢・さばーとの福原さん、「入
塾時の給料支給額は約6700円で、他の塾
生の半分以下。それでも生産性を上げるライ
ン化や利用者支援のあり方を学び変わりました。
現在は営業に力を入れ、約4万円の給料
を支給しています」と新塾塾1期生の(NP
O)出愛いの里福祉会の高橋さんも報告しま
した。二人の話は、今後も塾で学んだことをコ
ツツと続けていけば、きっと成果が現れるこ
とを証明してくれています。

「卒業しても終わりではありません。これか
らの切磋琢磨こそが大事です」と瀬戸理事長
は、塾生たちにはなむけの言葉を贈りました。
成果報告のあとは、塾長賞の表彰へ。「みんな
の頑張りを見てきたからこそ、一人だけを選
ぶというのは難しかったと話しながら、3塾
長が塾長賞を発表しました。

塾長賞の紹介

5万円必達塾

(NPO)かしのみ
小俣 弘美さん

「最も相談の電話をかけてきた塾生が小俣さん。第2期武田塾から計4年間、よく頑張りました」武田塾長



第2期亀井塾

(NPO)ヒールアップハウス
石崎 美智さん

「厳しい状況の中、新商品の販路拡大などで成果を上げました。今後もその努力を続けてほしい」亀井塾長



熊田塾

(社福)ゆずりは会
小淵 久徳さん

「農業は挑戦が大切。作付け面積を倍にし、自然栽培などチャレンジを続けた小淵さんに贈ります」熊田塾長



今後と同じ目標を持つ仲間と情報を交換し、互いに高め合う関係に

翌日は、塾長たちが講評を行い、卒業していく塾生にエールを贈りました。「目標は5万円か7万円か、その上か。ゴールを見失わなければ、日々の取り組みも揺らぎません」と武田塾長。亀井塾長は「設備や環境を整えるにはお金がかかるが、利用者さんのスキルを上げ良い商品をつくることはできる」と激励。熊田塾長は「失敗を恐れずやっていきましょう。私たちが信じて行動すれば、利用者さんの人生も

変わってきます」と伝えました。「利用者さんの適性に合った仕事を提供すると力が出るし、能力も伸びる」と新堂塾長。新堂塾のアドバイザー 東京学芸大学の菅野教授は「卒業後も機会をつくり、互いの課題と解決法を報告し合いながら進んでください」とアドバイスしました。

実践塾最後の分科会で塾生たちは「今後も塾生間のつながりを深め、利用者さんのスキルアップ、仕事の拡大、給料増額を目指して互いの姿を確認しましょう」と、仲間としてこれからも切磋琢磨することを約束しました。

第2期楠元塾が、第1回研修会を開講

修了式に参加した翌日、第2期楠元塾は第1回研修会を行いました。10名の塾生たちは、既に手広く弁当事業を行う者、高齢者向け配食を計画する者、これから弁当事業をはじめる者と、さまざまです。

楠元塾長は、早速、自分の施設(社福)キャンパスの会で具体的にどのような弁当づくり、配食サービスを行っているかを写真とともに紹介。「材料はもちろん、どんな容器を選ぶかでも原価は変わってきます。みなさんは、まず棚卸しを正しくできるようになってください。それだけで利益は随分と向上します」。

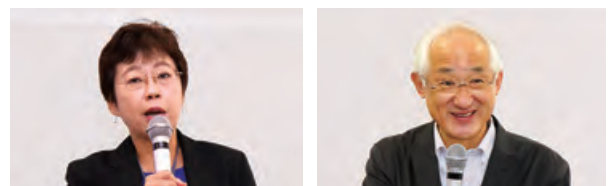
次は塾長のキャンパスの会に集まり、実際に現場を見学しながら、技術・考え方などをさらに深めます。



(社福)キャンパスの会 楠元洋子理事長を塾長に、弁当・配食サービスを学ぶ「第2期楠元塾」

第3期新堂塾は、2年間の折り返し地点へ

2年間の実践塾の折り返し地点に立った第3期新堂塾。初日は、塾生がライン化や5Sでの職場改善と売上・給料について中間報告を行いました。翌日の分科会では、新堂塾長と菅野教授が各塾生の改善点を指導。「目標の達成には、営業力の強化と利用者さん一人ひとりを見つめたアプローチが大切」と課題を与えました。



「利用者さんの職業能力を高めれば給料が上がり自信もつく」(社福)武蔵野千川福祉会 常務理事の新堂塾長(左)と菅野敦教授(右)

大規模・集約型農業でニラむ未来

JR富山駅から車で40分。立山連峰を臨む農業地域に、農業に特化した就労継続A型の就労支援事業所ハーベストがあります。高齢化が進む地域で、耕作放棄地の問題にも取り組みながら、障がい者が農業で稼ぎつづけられる仕組みづくりに真正面から挑んでいます。

Data

社会福祉法人 秀愛会
就労支援事業所ハーベスト
富山県富山市



①色つやが良く、肉厚なアルギットにら ②この日はあいにく台風5号が本州上陸。それでも市場が開いている限り、収穫はノンストップ。刈り取るとまたそこから生えてくるので毎月1回は収穫できる ③主任の坂田俊久さん ④1箱50束入りで出荷 ⑤海藻アルギット(肥料)。ニラを植える初年度に3年分をまとめてまく。値段も高めなので初年度の出費は大きい ⑥泥落としと根元のカットは、洗浄そぐり機(手前)で行い、左奥で計量して包装機(中央奥)で袋詰めして完成 ⑦歩留まり改善のために、現在は洗浄そぐり機にかけける前に、ハカマ取り(根元の白いところに残っている薄皮を除く作業)を行っている

新ブランド野菜にすべてをかける

「アルギットにら」ってご存じですか？ 葉肉が厚く、しつかりとした甘みがあり、日持ちも長いのが特徴で、富山県の新ブランド野菜として目下売り出し中のニラです。でも、そもそもアルギットって何ですか？

答えてくださったのは、就労支援事業所ハーベストの主任・坂田俊久さん。ハーベストはアルギットにらに特化した農生産でがっちり稼ぐことを目指す、2014年4月に設立されたばかりの事業所です。

「アルギットは、ノルウェー沖で採れる天然の海藻でミネラルを多く含み、これを元にした肥料で育てたニラが、アルギットにらです」

ニラ栽培の1サイクルは3年。アルギット肥料を畑にまき定植、植えた年は刈り取って管理をするだけ。収穫は2、3年目です。富山の場合、6〜10月が出荷シーズンで、この間に4〜5回の収穫ができます。

借り受けた耕作放棄地は全部で1haありますが、出荷できるのは一昨年に植えた10aと昨年に植えた40aの田んぼから。今年植えた50aの収穫は来年以降です。

アルギットにらに商品を絞り込んだ経緯を伺いました。

「ここを立ち上げる2年前に、もう一つ別の事業所を開所しているんですけど、そこでは多品目・手作業中心の農業を手がけました。しかし、安定した成果を出すことが難しく、給料を向上させるには、大規模化を図って収益性の高い農業を狙うしかないという話になりました。そうして発足させたのが、ここハーベストです」。



せつかくの機械化もまだ発展途上

そんな坂田さんたちのもとに、ニラの出荷作業を手伝ってほしいとの依頼が飛び込んできたのは、利益率の高い品目をちょうど探していた折アルギットにうこの出会いです。

「すごく需要が伸びていて、県の推奨品目になったところだったんです。JA全農とやまによる最低価格保証があり、市場価格が下落しても一定の収益が見込めるのは魅力的でした」

とはいえ、素人集団が一つひとつ学びながらスタートの3年。当初の目論見通りにいかないことが多々あるようです。

ニラの出荷作業には洗浄・計量・包装の3工程を要します。刈り取ったニラの泥を水で洗い、下葉や薄皮といった部分をきれいに取り除く



「そぐり」作業を済ませたら、計量器で規格重量ごとに輪ゴムでとめ、袋詰めをして完成です。その手間は相当なもので、熟練者でも一人で30束作るのに1時間はかかります。

この厄介な作業を、坂田さんたちは機械化で乗り切る計画を立てました。当財団の助成を利用し、洗浄そぐり機、結束包装機を昨年6月に整備、ラインを組みました。

「機械を導入して、効率は2倍以上です。手応えはありますが、まだ機械のレベルに私たちが追いついていないのが現状です」

というのも、収穫したニラの質にはらつきがあり、品質の良くないもの、葉が黄色いものが混じっています。刈り取ってそのまま洗浄そぐり機にかけると、検品で9割くらい廃棄しなければならぬ時もありました。

「農業で稼ぎつづける」を証明したい
工程の順番を変えるなど工夫し、歩留まりを上げてきましたが、それでもまだA品は60〜70%。

「耕作放棄地に、いくらいいい肥料を入れても、土が馴染むまで生育にムラが出るのは仕方ないと聞いています。それでも5年以内には…」と坂田さん。そぐり工程を経て製品化することで、当初の計画には及びませんが、収量が月6も、今年度の売上も600万円を見込んでいます。

「僕らが目指すのは、継続的な収益が期待できる、障がいを持った方の農業モデルを確立することです。全国の方には『アルギットにらつておいしいね』って言ってもらえるよう、その一翼を担える生産者に、ちよつと大きく出しましたが早くになりたいですね(笑)」。

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 26

ヤマト運輸労働組合
富山支部執行委員長
早川 朗 さん



カンパをしてくれたみんなの誠意も、 確実に伝わっています。

本日は過去最高の400キロを超える収穫があり、作業所は活気に溢れていました。障がい者の方々は、的確にそぐり作業や包装作業を行ない、手馴れた様子。障がいのあるなしに関わらず能力に応じて働けることが、一番の幸せではないでしょうか？

先輩農家さんからの指導、県やJAとの連携の中で試行錯誤を繰り返しながら、精力的に活動されているハーベストさんを目の当たりにし、私たち労働組合は「夏のカンパ」が、どこでどのように役立っているかを伝えなくてはならないと実感しました。これから小倉イズムを労働組合は大事にしていきます。



この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコDM便配達事業

自主的に、確実に、思いやりをもって。 就労後に役立つ経験を重ねていく。

茨城県取手市。JR東日本の常磐線取手駅から車で7〜8分の住宅街に、『NPOらしんばん』の就労支援事業所“そよかぜ”があります。
クロネコDM便の配達数は、1日平均約150冊。
3人のメイトさんを中心に数名で、広範囲のエリアを自転車で配達しています。



吉広雄治さんは坂の上に自転車を停車。坂の下まで歩いて配達し、また坂を歩いて戻ります。「方向音痴で初めは迷ったりもしました。でも、今では道を間違えないし、配達ルートを決めるのもラクになりました。メール便を始めた時は不安があったけれど、少し自信ができました。就労の機会があれば、前に一歩踏み出そうと思っています」。

体力をつけて 自主性を高めること

“そよかぜ”設立の際、理事達が就労するために必要な訓練としてあげたのは、次のようなことです。体力をつけて、持続力や集中力を高めること。協調性や責任感、自立心を持つこと。生活リズムを整えて、報告・連絡・相談の「ほう・れん・そう」を習慣化することなど。メール便はこれに適しているとして、“そよか

取手市は茨城県の南部に位置する、人口約10万人の都市。東京の中心地から電車で約1時間。東京は通勤圏内です。
2009年2月、『NPO法人らしんばん』の理事達が協力して、クロネコメール便（後にクロネコDM便）配達を開始。当初は、理事達で配達し、仕事内容を覚え、手順を作成することから始めたといえます。その後、就労移行支援事業所“そよかぜ”を2012年に設立。そこで、引き続きメール便配達に取り組んできました。

みんなで相談して 配達数を公平に

朝のメイトさんの関心事は、その日配達するDM便が何冊かということ。この日は18冊だけで、ちよつとがっかりしていました。みんなで仕分けをした後、配達地域ごとの冊数をリストに書き入れると、“そよかぜ”恒例のメイトさんタイムが始まります。今日はここを配達したいと、自分から手をあげます。そして、エリアが重なる話し合いをして、担当する配達エリアを自分たちで決定。最後に、3人のメイトさんの配達数がほぼ同じになるように調整します。
職業指導員の笠島美香さんは「僕の方が2冊多いから、と言って少な

ぜ”のもっとも重要な就労支援事業となりました。

- ヤマト運輸茨城主管支店 取手駅西口センター
面積9.94km²/人口88,842人/世帯数8,549世帯
- 『NPO法人らしんばん』
就労移行支援/就労継続支援B型事業所“そよかぜ”
2009年2月、クロネコメール便（後にクロネコDM便）をスタート。
1日平均約150冊。他には喫茶“そよかぜ”の配膳と食器洗浄、建築部品の組み立てなど。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」
参入施設数 316施設 従事者数 1,592人（2017年8月現在）
お問い合わせは……（公財）ヤマト福祉財団 DM便担当
TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165
<http://www.yamato-fukushi.jp/>

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達にはクロネコDM便配達へと変わりました。



▲地図に配達先をマークし、配達ルートを書き入れる
大山毅一郎さん(右)と“そよかぜ”職業指導員の笠
島美香さん(左)

◀仕分けをする前田大輔さん。町名別に何冊あるかを
数えて紙に書き入れます。その後、他の人が再度確認。
必ず複数の人の目でチェックします。

坂道を計算に入れて 配達ルートを決める

取手市は坂が多い街。とりわけ“そ
よかぜ”の配達地域では、自転車
で上るのがとても大変なほど、急な坂

い人へ、近いエリアの分を1冊手渡
したりしています。思いやりとフエ
アな気持ちを感じます」と話します。



▲「ヤマト運輸の制服を着ると身が引き締まり
ます。一つ一つが訓練。集中力がつき、精神的に
強くなっていると思います」と大山毅一郎さん。

▶自転車のスタンドは、頑丈で壊
れにくく、倒れにくいものを特注。



▲住所と名前を確認してから投函する吉広雄治
さん(上)。大山毅一郎さん(下)



配達しながら 地図を作っていく

“そよかぜ”は近くの住宅街だけで
なく、今年、工場と新興住宅街が広

道がいくつもあります。そのため、
配達ルートを決めるときは、まず坂
道を頭に入れておくことが大切。坂
の下に配達先があるときは、坂の上
に自転車を抑えます。坂を歩いて下
りて配達し、歩いて坂の上へ。たとえ
遠回りでも、自転車で坂を上らなく
てもすむように順路を組むことがカ
ギ。時間のロスがなく、体力を消耗
しないで配達することが出来ます。

任せている分 しっかりサポート

新しいメイトさんが配達を始める
時は、その人のペースに合わせて、

がる遠方の配達エリアが増えまし
た。ここは次々と家が建ち続けてい
る、開発中の地域。最新版の地図に
は以前の情報が載っていないため、
少し前の地図を図書館でコピー。前
に住んでいた人の情報を確認しなが
ら、そこに転居先情報や新しい配達
先を書き込み、情報を更新していま
す。まさに配達によって、日々新し
い地図が生まれています。

さらなる情報交流で パートナーの絆を強く

覚えるまで職員が同行。段階的に任
せながら、少し離れた場所から見守
り、何かあったら連絡を待ちます。
出発時間を明記して、夏は1時間以
内に、必ず連絡を取り合うこと。熱
中症予防に、水を2〜3本と塩飴を
持つことなど、きめ細かくルールを
作り、サポートをしています。

ヤマト運輸茨城主管支店 取手支
店 斉田正史支店長は「坂道を攻略
し、効率的に配達していることがわ
かります。新しい配達エリアは、ヤ
マト運輸のドライバーにとっても難
易度が高い地域。情報を共有できれ
ばありがたい。これからもパートナ
ーとして共に頑張っていきたい」と
語ります。

ヤマト運輸茨城主管支店 サービ
スセンター 長塚一守センター長は
「今従事しているメイトさんが高齢
化する中、“そよかぜ”は頼れるパ
ートナー。より安定した品質を保てる
よう、今後もバッグアップしていき
たい」と結びました。

“そよかぜ”からは、すでに十数名
が一般就労しています。日々の作業
の中で身に付いたのは、何度も確認
し、間違っていたらすぐにもとに戻
ってやり直すやり方。そして、一緒
に働く仲間への思いやり。DM便配
達の経験は、確実にそれぞれの職場
で生きています。



前列左から／斎藤一矢
さん、前田大輔さん、大
山毅一郎さん、職業指導
員 笠島美香さん、後列
左から／ヤマト運輸茨城
主管支店 サービスセン
ター 長塚一守センター
長、就労支援員 神崎恵
子さん、ヤマト運輸茨城
主管支店 取手支店 斉田
正史支店長、サービス管
理責任者 泉たけ美さん、
生活支援員 宮本香
織さん、岡美葉子さん、
朝倉正彦施設長



(左)『NPO法人らしん盤』
高島睦子理事長「基本的
には一人で責任を持ってやら
なければならぬ仕事。辛いこ
ともあるけれど、心が鍛えら
れています」。
(中)“そよかぜ”職業指導員
笠島美香さん
(右)“そよかぜ”朝倉正彦施
設長「挫折を味わっている
人や治療中の人がある。毎
日、体調の波もある。それで
も、続けることで、朝起きる
ことも苦労ではなくなります。
DM便配達は、就労訓練にし
っかりと役立っています」。

株式会社ニチケアパレス／「ニチホーム矢口」をはじめとする72施設の介護付有料老人ホームと6カ所のサービス付き高齢者向け住宅を関東中心に運営しています。現在45名の障がいのある方が活躍しています(雇用率2%／2017年4月1日現在)。



「仕事を終えたあと、周りの方から“頑張りましたね”と声をかけてもらえるのがうれしい」と佐々木さん(前列右)

好きなのはトイレと洗面台の掃除 「キレイになって気持ちいい」

1日にたくさんの居室清掃を担当する佐々木さん。「まずはおお客様にご挨拶してからお部屋を清掃します」と仕事の手順を教えてくださいました。

■ヤマト自立センター スワン工舎 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

佐々木さんの勤務時間は10時～16時。出社すると、全室のゴミ集めから開始します。「これは佐々木さん一人に任せている仕事です。広い館内を歩きまわり、一部屋一部屋お客様に挨拶しながら行うゴミ収集は大変だ

なのでその点も安心です」。

佐々木さんのコミュニケーションをきちんと取れる方

なでその点も安心です」。

面接で佐々木さんの人柄が採用の決め手と話すニチホーム矢口のホーム長 坂田進一郎さん。「居室清掃は、佐々木さんとういう一名が手分けして、一部屋に対し週2回のペースで行っています。お客様がお部屋にいらつしやる

ときに清掃に入りますから、必ずノックと挨拶をして入室しなければなりません。佐々木さんはコミュニケーションをきちんと取れる方

なでその点も安心です」。



入居者様の部屋を訪ね、主に床、トイレ、洗面台を清掃します



床はモップと掃除機で掃除。動かした物はもとの位置に戻します

佐々木 マリ子 さん 介護付有料老人ホーム ニチホーム矢口(平成27年10月1日入社)

グループホームで暮らす佐々木さんの休日の楽しみの一つは、お気に入りの喫茶店でランチをすること。食後は、携帯電話を見ながらのんびりお茶をします。

とありますが、いつも丁寧に仕事をしてくれています」。

勤務して2年、仕事も慣れてきた佐々木さん。ポケットには、何月何日にどの館の部屋を担当したかを記した単語帳が入っています。部屋数を正しく報告できるようにと、自分で考えたアイデアです。

「そんな工夫もしていただんですね。お客様からは、あの人は本当によくやってくれていると、お褒めの声が届いています。介護職員たちも、佐々木さんが居室清掃をきちんとこなしてくれているので、介護の仕事に専念できる時間が増えたと感謝しています」。

佐々木さんの課題は、床掃除などのあまり得意ではない箇所の精度も上げること。

「これでキレイになったと思う佐々木さんの感覚と私たちの感覚を一致させることが大切

です。いまはシート交換の練習もしています」と坂田さん。

(株)ニチケアパレスでは、「さらにできること」を広げ、お任せしていくことで、自身のやりがいにもつながってほしいと願っています。

職場で期待される佐々木さんは、プライベートも充実。「小さい頃から歌手になりたいと夢を持ち、いまは月に2回ぐらい一人カラオケに通い練習をします。いつかは人前で歌ってみたいと、楽しそうに話していました。」

「(株)ニチケアパレスでは、障がいのある方をもっと受け入れていく方針です(坂田ホーム長)」



(株)ニチケアパレスでは、障がいのある方をもっと受け入れていく方針です(坂田ホーム長)

YWF TOPICS

ヤマト労連より5701万4000円のご寄付をいただきました
ありがとうございました



ヤマト運輸労働組合第72回定期中央大会が新潟県南魚沼郡の湯沢カルチャーセンターで9月14・15日に開催され、その中で『夏のカンパ』の贈呈式が行われました。

ヤマトグループの社員・組合員のみなさまのカンパから、今年は昨年よりさらに多くの5701万4000円の貴重なご寄付をいただきました。

財団の瀬戸理事長は、贈呈に際し、「助成金を差し上げたところは、これがみなさんが汗水垂らして作ってくれたお金だと言うことを良く理解してください。その助成した施設が障がいのある方の給料がアップして、それ以上にうれしいのは、障がい者が新しい仕事、もっと難しい仕事ができるようになること。物心両面で支援ができています。

私たちはよい事業を紹介して、よい経営の仕方を紹介していきたい。以前

はベーカリーが多かった障がい者施設の事業も今は、お弁当屋さんもあれば、食品加工、クリーニング、自然栽培で農業に取り組んだりなど、様々に広がっています。最近では、山や海を荒らす害獣を使いペットフードの製造で成果を上げている施設がありますが、その事業を害獣で困っている地域の新しい仕事として始められないかと、考えています。

助成金の使い道が圧倒的に多いのは機械化して生産性を上げることですが、こういった事業に助成金を使い、世のため人のためになること、障がいのある方達が自立していけるように、みなさんの浄財を決してムダにすることなく、財団も頑張っていきます。ありがとうございました」と、お礼の言葉を締めくくりました。

ネパール小児白内障医療プロジェクトが 始動します

第17回ヤマト福祉財団小倉昌男賞を受賞された竹内昌彦氏が、その副賞をもとにして小児白内障治療を目的に『ヒカリカナタ基金』を創設しました。

子どもの頃に失明した竹内さんは、講演活動やご自身の半生を綴った書籍の売上金をすべて、モンゴルのマッサージュスクールやキルギスの視覚障がい者リハビリテーションセンターの建設、貧困により手術を諦めていた視覚障がい児の手術費用を肩代わりするなどの支援に充てています。その活動が評価され、昨年のヤマト福祉財団小倉昌男賞の受賞となりました。

財団は、竹内氏より次に支援を必要とする国はないかと相談を受け、ヤマトグループで就労するネパール人が急増していることから、ネパールでの支援を検討した結果、50歳以上の失明率は2.5%。小児白内障については手術をすれば20%が完治でき、60%が視力回復できると思われます。

ヤマト福祉財団では、竹内氏が立ち上げた基金とともにネパールの小児に対する白内障医療プロジェクトを立ち上げ、支援を行います。

障がい者助成事業 平成29年度奨学生の贈呈式を行いました

ヤマト福祉財団では、障がい者を乗り越えて社会のために貢献したいと考え、勉学に励んでいる大学生に、月額5万円(返済不要)を助成しています。今年度は、全国から70名の応募があり、6月15日の選考委員会で12名が決定。奨学生のキャンパスにお伺いして、贈呈式を行いました。



木下 歩さん
国際基督教大学 教養学部アーツ・サイエンス学科



幸谷 圭都さん
宮城大学 事業構想学群価値創造デザイン学科

シャガール 三次元の世界



《誕生日》1923年 AOKIホールディングス蔵
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017, Chagall
® E2685



《紫色の裸婦》1967年 個人蔵
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017, Chagall
® E2685

彫刻家シャガールの誕生

愛や結婚をテーマとした作品を多く遺したマルク・シャガールは、モダニズムを開拓した20世紀を代表する芸術家の一人です。絵画や版画は多くの人たちを魅了しつづけていますが、彼が晩年に多くの彫刻を制作していたことは、それほど知られていません。

ナチスのユダヤ人迫害を避け、第二次世界大戦中に亡命していたアメリカから、戦後1950年代にフランスへ戻ると、やがて南仏に定住し、地元の伝統的な職人と陶磁器や彫刻の制作を始めました。63歳のことです。

交錯する平面と立体、旺盛な創作意欲

すでに20世紀彫刻は、ブロンクシーやジャコモメッティといった彫刻家、ピカソやマティスらによって新しい表現を獲得しつづけていましたが、シャガールは独自の世界観を築き上げていきます。本展では、彼の彫刻作品を日本で初めて本格的に紹介、総点数170点というボリュームでシャガールの三次元世界へ分け入ります。

DATA

開催期間 ▶ 2017年9月16日(土)～12月3日(日)

休館日 ▶ 月曜(祝日は開館し、翌日火曜)

開催場所 ▶ 東京ステーションギャラリー

アクセス ▶ JR「東京」駅(丸の内北口改札)すぐ

開館時間 ▶ 10:00～18:00

※金曜日は20:00まで開館 ※入場は閉館の30分前まで

観覧料 ▶	一般	大・高校生
	当日 1,300円	1,100円

※障がい者手帳をお持ちの方は100円引き(介添人1名は無料)

主催 ▶ 東京ステーションギャラリー(公益財団法人東日本鉄道文化財団)、東京新聞

特別協力 ▶ メレット・メイヤー、国立マルク・シャガール美術館

後援 ▶ 在日フランス大使館、アンスティチュ・フランス日本

協力 ▶ 日本航空

企画協力 ▶ 株式会社キュレーターズ

問い合わせ先 ▶ 03-3212-2485

HP <http://www.ejrcf.or.jp/gallery/>

巡回情報 ▶ 名古屋：名古屋美術館 2017年12月14日～2018年2月18日

青森：青森県立美術館 2018年3月10日～5月6日



《ふたつの頭部と手》1964年 個人蔵
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017, Chagall
® E2495



《青い口》(背面/正面)1954年 個人蔵
© ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2017, Chagall
® E2685

今年は「ハッピートールケーキ」でメリークリスマス!



ハッピーHAPPY



ハッピーサンタクロース



ハッピートールケーキ

「ハッピーHAPPY」は真っ白なホイップクリームがたっぷり。中央にあるネコの足跡の上に、抹茶ホイップでデザインされたもみの木の「ハッピーサンタクロース」をのせると、高さ11.5cmのトールケーキに変身。「ハッピーHAPPY」と「ハッピーサンタクロース」を同時に注文いただいた方から抽選で100名様に『オーブントースター』をプレゼントします。

※詳しくはポスター、ホームページをご覧ください

甘過ぎなくて
クリームが美味
しい♥
YHC大西さん

ハッピーHAPPY
はクワイ・イチゴ
ジャムが味のポイント。
YHC杉本さん

ハート形の特定
アレルギー
不使用ケーキ
を注文します。
YHC日隈さん

お申し込み 11月1日～12月5日
お届け日 12月20日～12月24日

○障がい者施設からご予約いただけます。

お問い合わせは
(株)スワン 担当：藤野まで
☎0120-230-787
<http://www.swanbakery.co.jp/>

